文政改元之年臘月十八日
於風所舎興行

俳諧之連歌

素堂

年忘れ意に
桃乃花書ん
酔ふてハ織る
箭乃実て　空子文
賤の女にまかせ笑
いろて続とて　素蝶
住手に昔ゝ
岩井の神草　千丈
待月ハ雪と
ほしし蒲くり　雪亭
駒よまとのを
まくしすのゝ　蝶

入口を出る小く　文
松とめ一本ま鵺力
神の末流乃
うかゝ大空　若人
先に自ら所がらと
志流す時の東て菫湖
自慢咄しに
数奇まゐる　梧井
すゝきを横笠に
おし人はや中　文
船に乗る醉ハめ
旅乃かりの衣女　文
なかだに思ひ
きゆれ露咽の月　人
指をおりつゝ
氣にめ秋の夜　亭
五人家乃椎
淋しき虫の声　井
帰事心とちまの
酒ら蒼原　人
理あるとは思へは
焼し花の暮　文
ちつかま来ると
送る卯十廿敷　文